

◇現代社会と青年◇

目的のある美



むろだて いさお
室館 勲

株式会社潮流社 社長
株式会社キャリアアコンサルティング
代表取締役社長

今年で七十周年を迎える世界最古のミスコンテスト、ミス・ワールドの日本大会が開催されました。今年の二〇二一大会では、早稲田大学在学中の星たまきさんがグランプリに輝き、世界大会の切符を手に入れました。

私はファイナリスト三十一名に対して、日本の基礎教養の講義を担当しました。真剣に私の話を聞いてくれて、ディスカッションも積極的でした。さすがファイナリスト達です。

ミス・ワールドでは、外見の美しさのみを競うのではなく、内面の美も含めて、美に集まる人々の注目を活かして、どんな社会貢献をしていくのかという“Beauty With a Purpose”「目的のある美」をテーマに掲げています。日本代表審査は約一カ月に渡り、モデル審査や運動能力、チームワーク、スピーチなど多彩です。その中でミス・ワールド本部が最も重要視しているのが、“Beauty With a Purpose”の

スピーチです。ミス・ワールドの代表として、集まった注目を活かして、社会にどう貢献していくのかをSDGsの切り口でプレゼンテーションをします。

日本代表に選ばれた星たまきさんは早稲田大学の二十一歳。人生の大半をアメリカで過ごし、武器はその英語力です。昨年、早稲田大学の大隈記念学術褒賞候補になるほどの才色兼備な方です。彼女のスピーチは、フードロスを減らしていきたいというもの。星さんは自ら絵本を描き上げ、出版にこぎ着け、実際に啓発活動をされています。本の収益金は全て寄付されています。本当に素晴らしい活動です。

準グランプリの結那さんは、身内に聴覚障がい者があり、手話を普及する活動をしています。自ら手話付きでスピーチをされる姿は大変美しく素敵でした。

また、準グランプリの武用華音さんは、自然環境を考える内容でした。現在は木造住宅の建築会社に勤務。植林や、地元の木材で住宅を建てる事業をしています。特に同世代に強い影響を出すミス・ワールド・ジャパンのファイナリストの皆さんが社会貢献をしていくという活動は、大変意義深いことだと思えます。

社会全体や若者全体をすぐに変えるのは難しいですが、影響力のある人が良い発信をすれば、一人また一人と良い方向へ変化していくと思っています。

最澄の言葉で「一燈照隅 万燈照国」とあります。今後も若者達の小さな一歩を温かく見守っていききたいと思っています。